書　評

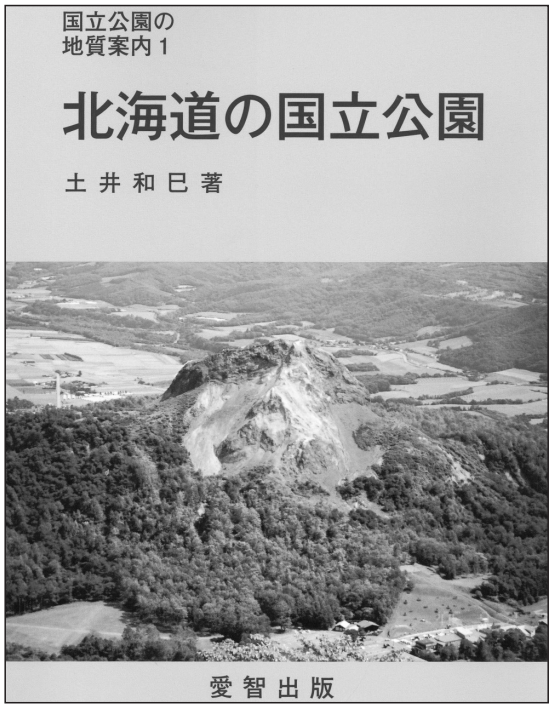
土井和巳（2008）
「国立公園の地質案内1　北海道の国立公園」
愛智出版（aichishuppan@pop06.odn.ne.jp）
108p　2,400円

国連の提唱した「国際惑星地球年IYPE」は，2007-2009年にわたり，今年がその中核年になります．各国で様々な取り組みが行われており，わが国でも国際惑星地球年日本（IYPE日本）を設立し，全日本的な取り組みを始めました．5月10日の「地質の日」設定，日本ジオパーク委員会の設立，ジオツーリズムの振興など産総研地質調査総合センターはもとより地方自治体，各学会，各省庁にわたってまさに産学官連携で，国民の地質学や地球に関するアウトリーチ活動が進められています．

すでに90年以上も前に，宮澤賢治は盛岡高等農林学校三年のときに同級生らと盛岡付近の地質調査を行い，翌年校内誌に報告書を載せております．その中で，「閑散なるの一日一鎚を携へて山野に散策を試みんか目に自然美を感受し心身爽快なるを覚ゆるのみならず造化の秘密を看破するを得，一礫一岩と雖も深々たる意味を有するを了解し，尽き難きの興味を感ずるは，生等の親しく経験したる所とす，加之冬夏の休業に際し地質図を手にして長期の跋渉を試みんか至る所目前に友ありて自然の妙機を語り旅憂を一掃せしむるのみならず，進んで宇宙の真理を探求せんとするの勇気をして勃々たらしむ，欧米には地質案内記の刊行せられたるもの多く，婦女子に至るまで之を携へて或は山岳を攀ぢ或は原野を彷徨するもの多しと聞き，其誠に故なきにあらざるを会得せり．」と述べているほどです．各地の地質をわかりやすく伝える書籍や資料などの地質ガイドの充実が望まれます．

本書は，まさにその好例といえるものです．著者は，核燃料物質探査のため国内外で地質や地質環境調査に従事してこられました．その過程で，例えばアメリカの公園での十分な施設整備やガイドの充実ぶり，買い求めやすい地質・地形の案内書が刊行されていることに感嘆すると共に，わが国におけるそれらの不備を慨嘆していました．今回，隗より始めよとのことで，現在全国に29ヶ所ある国立公園を切り口にして，その依ってたつ大地の地質を簡明に紹介しようとするものです．まずは，北海道です．道内には以下の6公園が選定されています．

地質から見たそれらの特色を本書の表1から抜粋



すると次のようになります．

「利尻礼文サロベツ」：火山島の利尻島，古い火山の礼文島，泥炭地の動植物と海岸の景観
「知床」：知床半島の火山の列，激しい波浪で浸食された海岸の景観と動植物
「阿寒」：雌阿寒岳に代表される火山群と堰止湖，カルデラ湖の景観，温泉
「釧路湿原」：泥炭地に発達した湿原の景観とそこに生息する動植物
「大雪山」：旭岳・十勝岳に代表される火山群がつくる景観と動植物，温泉
「支笏洞爺」：支笏湖・洞爺湖周辺の火山群とカルデラ湖の景観，温泉

おわかりのように，著者は北海道の国立公園は直接間接に火山と関連している事を指摘し，美しい景観と火山活動の関連性の深さを再三記述しています．

記述は平明で，図や写真も適切に配置されています．欲を言えば，オールカラーで掲載してもらえたらと無いものねだりをしておきたくなるほどです．やがて続刊される他地方の国立公園紹介とともにシリーズ全書を座右に置く事をお勧めします．

（産総研フェロー　加藤碩一）